

令和6年度 帯広市職場体験実習実施報告

帯広市 市民福祉部 福祉支援室 障害福祉課

1. 職場体験実習の内容

(1) 目的

障害のある方を市の各部署に職場体験実習者（以下「実習者」という。）として受け入れ、実習を通して職業能力の向上及び社会人としてのマナーや教養の習得を支援することにより、一般就労への関心を高めるとともに、市職員の障害のある方への理解促進を図ることを目的とする。

(2) 実習対象者

帯広市内の就労系障害福祉サービス事業所の利用者などで、将来、企業等での就労を目指す意欲を有している者。

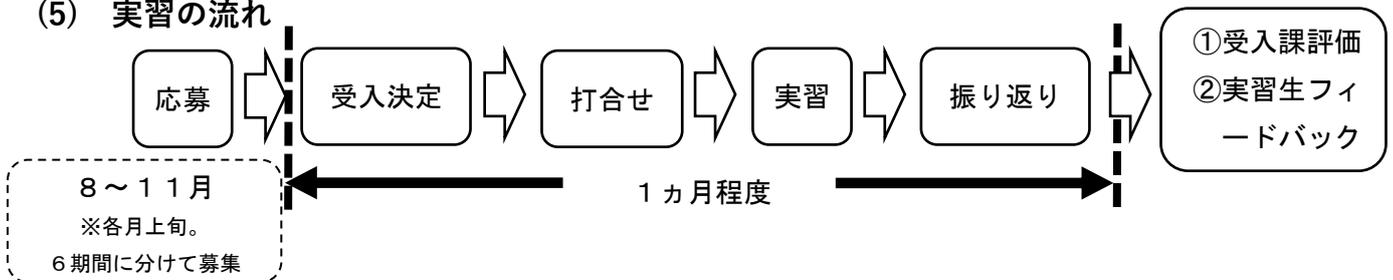
(3) 受入期間

令和6年8月から令和7年2月までの期間で、実習者1人あたりの実習期間を概ね2日間から1週間以内とし、午前8時45分から午後5時30分（正午から午後1時までは休憩時間）の間の時間帯とした。

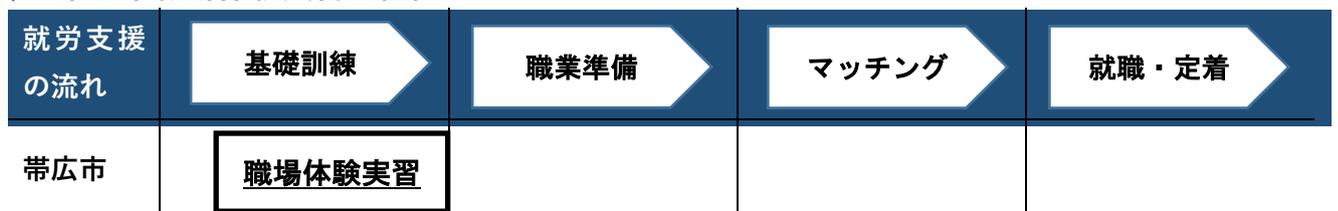
(4) 受入課及び実施人数

受入課	実習件数	実習参加人数
15課	19件	28名

(5) 実習の流れ



(6) 帯広市職場体験実習の位置づけ



- 帯広市役所の仕事を通じて、“今まで経験していない仕事にふれる”、“事業所で培ったチカラを試す”、“本人の自信につなげる”、“努力すべき課題を見つける”…などなど、次のステップに進むための足掛かりとなるものです。

2. 実習参加者からの声

●実習生の感想

- ・自分の得意なことや苦手なことを知ることができた。今後、他の分野にもチャレンジしてみたい。
- ・1人で行う仕事をしたいと思っていたが、他の実習生と協力して作業を行うことで、人と行う仕事も良いと感じた
- ・初日は報告・連絡・相談ができなかったが、最終日には報告・連絡・相談ができるようになり、自信に繋がった。
- ・休憩をとることが苦手だが、長期的に働くためには休憩をとる必要があると分かったので、事業所に戻ってから練習したい。

●事業所（支援員）の感想

- ・社会や仕事とはどういうものなのかを体感する良い機会となり、本人にとっても就職に向けたイメージに繋がったと思う。
- ・先のことを考えて作業を行うこと、より良い作業方法を提案することなど、仕事の能力は想像以上だった。本人の強みを改めて知ることができた。
- ・仕事は他者との関わり合いであることや、自己評価だけでなく、会社の評価があることを知ってもらう機会になった。
- ・たくさんの人の前で大きな声であいさつができるなど、普段の事業所では見られない姿を見ることができた。

また、市役所で実習を受け入れた課においても、障害者に対する考え方、感じ方に変化が芽生えたほか、障害のある方と共に働くための環境づくりについて考えるきっかけとなるなど、良い影響を与えてもらいました。

実習生、事業所支援員、市役所職員の双方にとって、大変充実した実習生活を送ることができ、貴重な経験を積むことができたと思います。

3. 今後に向けて

帯広市では、個々の就労訓練の段階に合わせて、「できること」と「不足」していることを確認し、その後のステップアップにつなげる場として職場体験実習を活用していただきたいと考えています。

本事業は前述の1(6)帯広市職場体験実習の位置づけに記載のとおり、実習生にとっては、就労にむけた最初の一步となるものです。就労に意欲があって事業所で頑張ってきたことを試したい方、就労への意欲がなんだかなくなってきたと感じる方、今の事業所の仕事だけでなく新しい仕事を試してみたい方、ぜひ本事業の活用をご検討ください。